

# 旧町名標識 一覧表(あいうえお順)

- (1)この表は、江戸時代末期の旧町名標識(細長い石柱)の一覧表です。
- (2)旧町名や町(「まち」「ちょう」)の読み方は、平成29年現在使われている町会名に基づいています。時代や資料により、異なる読み方もありますので、ご了承ください。
- (3)旧町名の読み方で、「まち」を省略して読むことが多いものには、読み方に( )を付けています。  
例:上土町 あげつち(まち)

旧町名	設置場所	目印	説明
葵の馬場 あおいのばば	松本市丸の内15番3号	池上百竹亭の前	城内三の丸にあった葵馬場に因む町名。この地で騎馬の修練が行われていたことを物語っている。戸田氏の藩祖康長が、徳川家康から許された葵の紋章に因み、この馬場の土堤に葵を植えたことがその名の由来という。
上土町 あげつち(まち)	松本市大手4丁目8番14号	上土通り、磯部整骨院の横、つたや呉服店の前	松本城の東側東門前の馬出し廓の堀の土を上げたところから町名となる。惣堀の外の武家屋敷地。この上土にかつては牢屋もあったと記録されている。
飯田町 いいだまち	松本市中央2丁目9番8号 藤森病院前	藤森病院の西側通り沿い。	飯田町は松本城下枝町十町の一つで中町に属していた。慶長十八年(一六一三年)に城主小笠原秀政が飯田より入部した際に、飯田から来た侍衆や奉公人・職人を置いたのが由来であるという。享保年間には家数七十軒あり、主に鋳物師・紺屋・石屋・鍋屋などの職人が住んでいた。
和泉町 いずみまち	松本市旭1丁目1番20号 住宅堀前	国道143号「城東二丁目」信号から北に行き、左側に「遠山印章」が見えたら、その北側にある。	町人町・東町の枝町の一町名。この町の成り立ちは古く、天正十三年(一五八五)頃といわれ、由来はこの辺りから清水が湧き出たからとも、倉品和泉という人物が住んでいたからともいわれる。東町の北に続く善光寺道に沿い、家数百十一軒、小路は南から東側に長称寺小路、観音小路、前裁小路、西側には袋町から東町に出る小路があった。
伊勢町 いせまち	松本市中央1丁目18番1号	Mウイング前、バス停の横	町人町・本町の枝町の一町名。城下町西口の出入り口にあたり、西端には十王堂が置かれていた。町の規模は、本町から出口まで東西三町五十六間、道幅三間半、家数一九五軒で、東から上丁、中丁、下丁となっていた。
裏小路 うらこうじ	松本市中央2丁目472-2 先	商工会議所駐車場の北側、女鳥羽川沿いにある。	東町大橋から大手橋(千歳橋)までの女鳥羽川左岸を、中町の裏にあたることから裏小路と呼んだ。天保三年(一八三二)犀川通船の通航により日本海の高産物が運ばれるようになると、道幅一間の通り沿いは魚屋などが軒を並べにぎわった。
餌差町 えさしまち	松本市大手5丁目3番9号	清水橋の西側にある。放光庵(餌差町の十王堂)の近く	餌差町は城下の東の出入り口に当り、町の東端には木戸と十王堂が置かれ、町番が木戸を守っていた。百姓や町人はこの木戸からの乗馬は認められなかった。町名はここに藩主の鷹の餌(小鳥)を差し出す役目の「餌差」を置いたことに由来するという。

御徒士町 おかちまち	松本市開智2丁目9番12号 住宅前	高橋家住宅(松本市重要文化財)から東の方に歩いていくと、右手の花壇の中に見える。	武士は職分により住居地が定められていた。お城の北にあたるこの東西の通りの両側には徒士屋敷が軒を連ねていた。
鍛冶町 かじまち	松本市大手4丁目5番6号 前	山家小路「田楽木曾屋」の斜向い(南西側)にある。	町人町・東町の南端から山家組へ通じる枝町名。「信府統記」には「家数二十七軒、町幅三間。昔八紺屋トモ云ヒ、中比鍛冶町ト云ヒ、今八山家小路と云フ」とある。享保年代ころは山家小路と呼ばれていたが、江戸時代後期には鍛冶町の名称が定着した。
片端町 かたは(まち)	松本市丸の内7番 深志橋の南東側たもと	「深志橋」交差点から南を見ると、右手(堀側)に見える。	松本城惣堀の外の武家屋敷地帯で、東側のみ屋敷割されたことから町の名がついた。「信府統記」によれば、「……片端南北二百二十拾四間余……」と家並が続いていた。
上馬出し かみうまだし	松本市城東2丁目157-5 先(2丁目6番21号前)	信号「深志橋」から北に行き、中澤医院の東側のT字路を右に曲がり、歩いていくと左側にある。	馬出しは、城門の前に人馬の出入りを敵に知られないように築いた土手の事である。上馬出しは、北門馬出し郭から和泉町へ抜ける通りをいう。尚江戸が上手になるので、城下町の北が上馬出しになり、東門馬出しから東町に抜ける通りが、下馬出しである。
上下町 かみしものちょう	松本市旭1丁目804 先(旭1-8-6)	「下下町」の碑のある通りの一本北側の通りにある。	城外武家屋敷の一町名。「信府統記」には「裏新町東西九拾九間余、家数北ヶ輪九軒、南ヶ輪拾二軒」とある。享保一〇年、同一六年の城下町絵図には裏新町が新町と書かれており、さらに幕末期には上下町と名前を変えている
上横田町 かみよこたまち	松本市女鳥羽1丁目9番8号 長称寺入口	葎町信号交差点から北に行くと、道路右側に見える。(長称寺の入口付近)	町人町・東町の枝町の一町名。東町・和泉町の裏(東)に位置する町で北を上横田町、南を下横田町といった。町割りが行われた際、女鳥羽川の東岸、横田村から人家を移したので、この町名がついたといわれる。
観音小路 かんのんこうじ	松本市城東2丁目8番12号	セブンイレブン和泉店から1ブロック南に行った交差点の駐車場カド	和泉町から分岐する二つの小路の一つ。和泉町より大安楽寺の観音堂に通じる道であったので、この名がつけられた。大安楽寺は真言宗の寺で、観音霊場信濃百番・三十三番札所めぐりの第一番札所となっており、歴代城主の祈願所であった。
北馬場町 きたばば	松本市丸の内9番 北馬場柳の井戸の前	北馬場の井戸には、大きなヤナギが立っているのので、それを目印にすると良い。	松本城北側惣堀外騎馬修練が行われていた所から町名になる。信府統記には「北馬場東西百五拾九間余、北側家数拾二軒南側堀端ナリ」とあり、東入口に番所があったと記されている。
小池町 こいけまち	松本市中央2丁目8番17号 付近	中町の蔵シック館から駅前通りに歩いていくと、右側にある。	小池町は松本城下の枝町十町の一つで中町に属していた。慶長十八年(一六一三年)、城主小笠原秀政が飯田より入部の際に南半分を奉公人衆の屋敷にした。その中に小池基之丞という軍学兵法の達人がいたので、その名を取ったという説と、この辺りに小さな池があったことに由来するとの説がある。

口張町 こうばりちょう	松本市北深志3丁目6番4号 付近	コージクロッシング(アパート)向かい側。位置としては同心町の碑の北西に当たる。	武家屋敷の最北端に位置する。 「信府統記」に「同心町北ノかうばり町東西七拾二間余家数南ヶ輪七軒北ヶ輪拾一軒」とある。 「松本市史」では紅梅町とあることから、当初紅梅の木があって起源となり、後に今の名に訛ったのではないかと述べられている。
小柳町 こやなぎまち	松本市大手4丁目9番4号	プレシス松本城公園(マンション)西	城内武家屋敷の一町名。大名町の東側、地蔵清水町と大柳町の南に位置した。二〇〇石から三〇〇石前後の俸禄の武士の屋敷があり、北の大柳町に対して小柳町と呼ばれた。「信府統記」には「小柳町、南北九拾間余、家数西ヶ輪四軒、東ヶ輪五軒」とある。
作左衛門小路 さくざえもんこうじ	松本市城東1丁目4番7号	城東二丁目信号 魚万の前	東町から分岐する六つの小路の一つ。名主萩原作左衛門がこの小路を開通させたことに因み、この名がつけられた。
塩屋小路 しおやこうじ	松本市城東1丁目3番11号	城東二丁目信号を南に行き、最初の方角を左に曲がって進むと、レオパレス21東町の前にある。	東町から分岐する六つの小路の一つで、恵光院につきあたる。町名は塩屋孫兵衛という豪商が居住していたことに由来する。この小路にあった井戸は底が海底へ通じ、昔より塩を供給する老翁が出現したとの伝説がある。
地蔵清水 じぞうしみず	松本市丸の内4番 松本市役所本庁舎前 市道1064号線沿い	松本市役所本庁舎前、外堀側の歩道にあるバス停の南の植込み。	この地は中世のころは市辻と呼ばれ、市が立ち賑わっていた。いつのころか清水の湧く辺りから石の地蔵尊が出土したので、地蔵清水と呼ばれるようになった。地蔵尊は生安寺にまつられている。
下下町 しもしものちょう	松本市旭1丁目7番11号北側道路沿い	セブンイレブン和泉店から北に行き、最初のカドを左に曲がると、なまこ壁の前にある。	城外武家屋敷の一町名。足軽町の太白町、中ノ町、東ノ町の南端を東西に結ぶ下町に並行して、摂取院から東へ新しく足軽町が造られ、下下町とか表新町と呼ばれるようになった。「信府統記」には「東西八拾九間余、家数北ヶ輪拾二軒、南ヶ輪拾四軒」とある。江戸時代末期には下下町の呼び名が定着した。
下馬出町 しもうまだし	松本市大手4丁目11番7号	松本城の南側の通りを東に行くと、佐廻春(さのはる、料理屋)の向いにある。	東門馬出し郭から東町へ抜ける通りで、北門馬出し郭からの通りが上馬出しと呼ばれたのに対して下馬出しと呼ばれた。
下横田町 しもよこたまち	松本市城東1丁目3番27号の南側の道路	正行寺の参道を西に出て、右側にある。	歴代城主の発願により、古くより寺町としての様相を呈していたが、一七三〇年代、既に現町名で二丁八間二五一軒の人家を構え、職工人の町として栄えた。主に湧水を利用した紙漉足袋の製造が多く、維新後は県内初めて料芸街として官許され、伝統は現在に受け継がれている。
生安寺小路 しょうあんじこうじ	松本市中央2丁目5番30号 稲荷神社前	高砂通り 松柏バツクの隣の稲荷神社前	町人町・本町から東へ入る小路名。かつて生安寺(現在は蟻ヶ崎に移転)を見通すことができる小路であったため、この名がついたといわれる。また、三月・五月には節供のひな人形を売る店が軒を連ねたので、ひな小路とも呼ばれた。

<p>正行寺小路 しょうぎょうじこうじ</p>	<p>松本市城東1丁目1351-5先(1丁目3番32号付近)</p>	<p>東町の通りから、正行寺に向かう道を行くと、左側にある。</p>	<p>東町から、下横田町にある真宗正行寺の山門にいたる参道であった。正行寺は、松本城天守を築造した石川数正・康長父子の菩提寺である。</p>
<p>常法寺小路 じょうほうじこうじ</p>	<p>松本市北深志2丁目888 先(2丁目5番9号付近)</p>	<p>「下下町」の一本南の通り、セブンイレブン和泉店から西に行くと、右手に見えてくる。</p>	<p>山伏の寺、常法寺がこの通りの東側下々町の角にあったことに由来する。明治になってからは小路入口の町屋の屋号をとって「あぶらた小路」とも呼ばれる風情ある小路。</p>
<p>新小路 しんこうじ</p>	<p>松本市中央2丁目10番13号付近</p>	<p>中西屋本店(酒屋)の東側の道</p>	<p>中の橋と中町を結ぶ小路で、小池町とは城下町の特徴であるくいちがいとなっている。貞享年間の頃、中町孫四郎の願によって屋敷の内に小路を開け肴店をはじめたという。</p>
<p>新町 しんまち</p>	<p>松本市北深志1丁目3番11号 中澤医院前</p>	<p>中澤医院の前のカドにある。</p>	<p>寛永十年に越前大野より松本城に入った松平直政は、三ノ丸北門・北馬出しから北にかけて城外侍屋敷を造った。最も新しい町であったので新町と名付けられた。町の北の端には湧水池の深志大池があり、飲用水に用いられ、その流末は総堀に注いでいた。</p>
<p>大名町 だいみょうちょう</p>	<p>松本市大手2丁目3番10号</p>	<p>大名町通りの市営大手門駐車場カド</p>	<p>水野氏時代までは大手南門通りと呼んでいた。女鳥羽川から北側の三の丸は、上級の武士が居住する地域であり、なかでもこの通りの両側は年寄や組頭など高禄の藩士の居住する所だったので、この名がつけられた。</p>
<p>鷹匠町 たかじょうまち</p>	<p>松本市開智1丁目1532-3番地先</p>	<p>松本神社北側交差点南西</p>	<p>城外武家屋敷の一町名。総堀の外、松本城の西北に位置し、慶安年間(一六四八～五二)に町割りが行われた。「信府統記」には「鷹匠町東西百三間余、北ヶ輪八軒但シ南ノ端鍛冶細工所アリ」と、町の様子が述べられている。後の戸田氏時代に鷹匠館差が置かれてこの町名がついたという。</p>
<p>田町 たまち</p>	<p>松本市北深志1丁目2番3号前 田町の南突当り</p>	<p>松本市役所東庁舎前の道を北に行って、突き当りを左に曲がると、左手のカーブミラーのところにある。</p>	<p>城外武家屋敷の一町名。この辺りはかつて大門沢の左岸の低湿地で水田のあったところに、慶安年間(一六四八～五二)水野氏により武家屋敷が設けられたので、この町名がついたといわれる。幕末の家数は東側十六軒西側二十一軒で、一〇〇石前後の武士の住む町であった。</p>
<p>長称寺小路 ちやうしょうじこうじ</p>	<p>松本市女鳥羽1丁目9番8号 先</p>	<p>長称寺入口にある。(近くに上横田町の碑がある。)</p>	<p>和泉町から分岐する二つの小路の一つ。和泉町より長称寺が見通せるのでこの名がつけられた。長称寺は親鸞上人ゆかりの寺で、山号を木曾義仲院といい、城下町の東に配置され、城砦的な性格を併せ持った寺であった。</p>
<p>出居番町 でいばんちょう</p>	<p>松本市城東1丁目1番12号 出居番児童遊園の東側</p>	<p>外堀の「かき船」の向かいにある細い路地を東に行くと、右手の公園の前に石碑が見えてくる。</p>	<p>出居番とは口々番所や筏番所へ交代で詰番にでる役職のことで、水野氏の時代におかれた。この町は、それらの任務にあたる武士が居住していたところである。</p>

天神小路 てんじんこうじ	松本市深志2丁目4番1号	進学会ビルのカド	町人町・本町五丁目から東へ入る一町名。本町から天神の社が見通せるので、天神小路と呼ばれた。なお、ここには小笠原秀政時代に京都右近に模した天神馬場が設けられていた。
天白町 てんぱくちょう	松本市旭2丁目7番 天白神社東側	天白神社の東側、道路をはさんだ敷地の中に立っている。	この町にある天白社には、天正年間に松本城に入った石川数正が、城の鬼門よけとして出身地岡崎より勧請したという伝承がある。水野氏の時代になって、ここに城外侍屋敷が造られると、この天白社にちなんで町名がつけられたという。
土井尻町 どいじり(まち)	松本市大手2丁目8番21号 安立寺	安立寺の入り口に立っている。	松本城三の丸の西南部に在り、城郭の外を巡る土居の尻であったことから名付けられた。西南に低く、堀の水は北から西南に潤し、中級武士の屋敷が並んでいた。
同心小路 どうしんこうじ	松本市中央2丁目3番17号の南側(2箇所)	知新堂ビルの南側の小路にある。小路の東側入口と、西側入口に1箇所ずつ立っている。	この小路は元禄九年(一六九六)に藩主水野忠直が設けた町同心の屋敷があったので、同心小路とよばれた。およそ十人の町同心が住み、本町・東町・安原町にあった同心番所に詰め昼夜をわかつたず、城下の治安維持と商取引の不正を取り締まった。この碑は、本町一丁目町会によって建てられました。
同心町 どうしんまち	松本市北深志3丁目7番12号 付近	四つ角のゴミステーションの横	城外武家屋敷の一町名。町名はここに同心番所が置かれていたことに由来するという。町は善光寺街道に沿った萩町と堂町、西町を結ぶ三筋の小路から成り立っていた。
堂町 どうまち	松本市北深志2丁目3番(2丁目538番地先) 堂町ゴミステーション5番の隣	萩町バス停から、一本西の通りに入り、北から南に歩いていくと、左手に見える。	城外武家屋敷の一町名。戸田氏の菩提寺のひとつ、妙光寺の御堂がこの地にあったので、この町名がついたといわれる。明治維新の際、古いしきたりを改めようと、「御」のついた町名から「御」をとり、堂町となったという。
土手小路 どてこうじ	松本市大手2丁目3番10号	市営大手門駐車場南棟の東側、中華料理百老亭の前	この小路は総堀の土手に沿っていたので、土手小路といわれた。大名町の南端にあった大手門際より東へ六十間余、西へ六十九間余あり、東は辰巳御殿、西は土井尻へ通じていた。大手南門から西の小路には、北側には武家屋敷三軒があり、一〇〇石前後の武士が住んでいた。
中ノ丁 なかのちょう	松本市旭2丁目2番7号 フォーレス21(アパート)の前のカド	国道143号旭町小学校前の信号を西に曲がり、歩いていくと、「東ノ丁」の次に、左側に見える。	城外武家屋敷の一町名。萩町の東に萩町に並行して東へ天白町、中ノ丁、東ノ丁と三筋の通りがあった。中ノ丁はその真中に寛永十九年(一六四二)に命名されたという。「信府統記」には「中ノ丁南北百六拾六間余、家数西ヶ輪二拾軒東ヶ輪三拾一軒、此町東西小路ニヶ所アリ」とある。中の町とも書く。
中町 なかまち	松本市中央3丁目4番21号 はかり資料館前	はかり資料館の前	城下町親町の一つで、「中町八外町之為中故中町ト号ス」(故実伝連記)とあり、善光寺街道の道筋であった。犀川通船開通(天保三年・一八三二年)の頃は、船も遊行していたので、塩・肴問屋が軒を連ねていた。

鍋屋小路 なべやこうじ	松本市中央2丁目7番21号 大塚書店前	駅前通り 飯田町信号のカドの大塚書店前	町人町・飯田町の南端の角から西へ入る小路名。「古実伝連記」には、「鍋屋有之故鍋屋小路」というと、この小路の由来が述べられている。鍋屋とは鍋や釜を作る鋳物師職人の事で、四軒の鋳物師屋があったという。
縄手 なわて	松本市大手3丁目77-1付近 市道1502号線	縄手通りの四柱神社入口にある。	縄道から転じ縄手となった。縄は「真っすぐ」の意味を持ち、通りの形から町名に。三の丸堀と女鳥羽川との間の道で、松並木の続く縄のような道であったと云う。
西堀町 にしほり(まち)	松本市大手2丁目8番11号付近 大手二丁目交差点南東カド	北松本駅から東に歩き、信号「大手二丁目」の交差点で南東カドを見るとある。	松本城西側の惣堀の外側南北に置かれた町で、城外屋敷の在った所。町の北端(現:税務署辺り)に西の馬出しが設けられ、不開門(あかずのもの)が在った。
西町 にしまち	松本市開智3丁目2番 西町児童遊園地(福島大将生誕地)	西町児童遊園地(福島大将生誕地)の北東カドに建っている。	城外武家屋敷の一町名。松本戸田家の祖・康長が元和三年(一六一七)から寛永十年(一六三三)までの間に、安原町の西に武家屋敷を設けたため、この町名がついたといわれる。「信府統記」には「西町南北百九拾七間余、家数西ヶ輪(西側)二拾七軒、東ヶ輪(東側)二拾五軒」とある。
萩町 はぎまち	松本市北深志3丁目3番 萩町バス停近く	萩町バス停の横にある。	この通りは善光寺道と呼ばれ、旅人や物資を運ぶ中馬の行き交う道であった。道の左右に萩を植えて垣根とし、侍屋敷を遮ったので、萩町の名がつけられた。水野忠直が慶安のころに板堀に改めたといわれるが、ゆかしい町の名は今に伝えられている。
博労町 ばくろまち	松本市本庄1丁目3番6号 相野田医院前(県道平田新橋線沿い)	緑橋を南に行くと、右手に相野田医院(精肉栄楽の隣)が見えてくるので、その前。	博労町は松本城下の南出入り口に位置し、枝町十町の一つで、本町に属していた。本町とは袖留橋(現緑橋)を境とし、南の端には十王堂が置かれていた。古くは貢馬を集めて置いた所で馬町とか馬喰町といわれたが、元禄六年(一六九三)、博労町に改められた。
旗町 はたまち	松本市開智3丁目433-1(開智3丁目3番1号付近)	城北公民館の前の通りをずっと北に行き、突き当たったところにある。	城外武家屋敷の一町名。西町と御徒町の間中に位置し、町の形が旗指物の形に似ているので、この名が付けられたという。
東ノ丁 ひがしのちょう	松本市旭2丁目2番10号 住宅前	国道143号旭町小学校前の信号を西に曲がり、歩いていくと、左側に見えてくる。	城外武家屋敷の一町名。天白町・中ノ丁の東に位置するためこの町名がついたといわれる。「信府統記」には、「南北百六拾五間余、家数西ヶ輪三拾一軒、東ヶ輪三拾軒」とある。享保十六年(一七三一)の絵図には間口六間・奥行七間程度の町割りが見え、今日でもその名残をとどめている。東ノ町とも書く。
東町 ひがしまち	松本市城東2丁目1番17号 城東公園	「上馬出し」バス停の横	善光寺街道に沿う東町は、松本城下の中心、親町三町の一つで、町名は城の東側に位置することに由来するという。「松本大略往来」には宿場町として栄えた様子が、「東町八諸国之旅人木銭宿、旅籠屋商人定飛脚之泊宿」と記されている。

一ツ橋小路 ひとつばしこうじ	松本市中央3-448-2 先(中央3丁目3番14号付近)	松本市はかり資料館の西の通り	中町から一ツ橋に通じる小路で宮村町とはくいちがいとなっている。古よりこの小路は肴店でにぎわい、藩御用達の商人はここを通過して東門から城内へ入ったという。
袋町 ふくろまち	松本市城東2丁目7番2号 袋町公民館前	袋町公民館の前	水野忠直の時代(慶安ころ)に造られた城外侍屋敷で、江戸時代の終わりには六十石取り前後の武士が住んでいた。この町は南が入口で、中ほどは鍵の手に曲がり、北端は行き止まりという袋小路になっていたため、形にちなんで袋町と呼ばれた。防備のために工夫された町割りである。
二ツ井戸小路 ふたついでこうじ	松本市城東1丁目5番	「城東二丁目」信号交差点南西側カド、魚万の向い	この小路は、二十四小路の一つで享保年間の絵図(享保十三年)によれば、親町東町から分岐し、捨堀の南の木戸との間である。小路の長さは二十三間、幅は一間四尺であった。ここには冷水の井戸が二つ設けてあったことから、小路の名前となった。また、木戸の内側には番所があり、番人が詰めていた。 この碑は東町二丁目町会によって建てられたものです。
本町 ほんまち	松本市中央2丁目7番5号 松本郵便局	松本郵便局の南側駐車場入口の横にある。	善光寺街道に沿う本町は松本城下の中心「親町三町」の一つで、大手橋(現千歳橋)から袖留橋(現緑橋)までの一丁目から五丁目までをいう。発祥は松本城築城の頃とされ、各種の問屋が軒を連ねる松本城下の荷物の集散地であり、経済の中心であった。
本立寺小路 ほんりゅうじこうじ	松本市中央3丁目11番3号	松本信用金庫中町支店の敷地内緑地	旧中町上ノ丁から本立寺の山門にいたる参道であった。慶長末年、小笠原秀政の母の菩提寺と定めたと、明治五年の廃仏毀釈で廃寺となった。伊織霊水は本立寺境内にあたる。
宮村町 みやむらまち	松本市中央3丁目7番3号 マンション小林前	マンション小林前の花壇にある。	町人町・中町の枝町の一町名。南端には宮村大明神があり、信濃守護小笠原貞宗が井川に居館を構えた頃の暦応年間(一三三八～四二)に守護神として宮村の地に祀ったという伝承がある。地名の起こりもこの頃といわれる。江戸時代の初めに町割りが行われ、その後、奉公人や職人などが多く集住した。
安原町 やすはらまち	松本市北深志2丁目4番1号 徳若菓子店前	宮坂徳若菓子店の前の四つ角、北東カドにある。	この辺りは古くは安佐端野(麻葉野)原と呼ばれていた。小笠原貞慶が天正十年に深志城を回復し、深志の地を松本と改め、同十三年に城下町の町割りを行った。善光寺道に沿って造られたこの町人町は「安佐端野原」の前後二字をとって安原町と名付けられた。
柳町 やなぎまち	松本市丸の内7番 松本市役所東庁舎前	松本市役所東庁舎玄関前	往古、この辺りを泥町といった。天正十年、旧地を回復した小笠原貞慶が、天正十三年から十五年にかけて、宿城の町割りをを行い、この地に侍屋敷を建てた。柳の木が多くあったので、柳町と名づけた。大柳町と呼ばれるようになったのは、明治以後のことである。
横町 よこまち	松本市中央3丁目4番	中町通りと大橋通りの交差点、北西カドの広場にある。	江戸時代、善光寺道は本町から中町に入り、下丁・中丁・上丁を通り、女鳥羽川に架かる大橋を渡って東町へ抜けた。上丁を北に折れ、大橋までに至る短い道筋周辺では、この道筋を中町と呼び、横町と呼び慣わしていたことがあり、「信州松本図写」(文化十三年・一八一六年)には「横町」と記されている。昭和初年に現在の大橋通りが開通し、かつての景観は無くなってしまった。 この碑は、中町一丁目商店街によって建てられました。

六九町 ろっく(まち)	松本市大手2丁目2番 長野銀行 大名町支店(2丁目2番16号)の 東側歩道	千歳橋を北に渡ったところ、長野銀行の前にある。	城外武家屋敷の一町名。総堀の外側、大手門前から女鳥羽川北側に東西にのびる町であった。「信府統記」には「南門ノ外川端ニ厩ヲ造ル、是ヲ外馬屋ト云、又六九馬屋トモ云、五十四足立ナルガ故ナリ」と、この町名の由来が述べられている。
----------------	---	-------------------------	--

【問合せ先】

**松本市教育委員会 文化財課**

松本市大手3-8-13 松本市役所大手事務所3階

TEL 0263-34-3292 FAX 0263-34-3299

令和5年10月1日改訂